



2021年3月5日

内閣総理大臣 菅 義偉 様
防衛大臣 岸 信夫 様

日本 YWCA 会長 藤谷佐斗子
総幹事 尾崎裕美子

戦没者の遺骨を辺野古新基地建設に使用しないでください

私たち日本 YWCA は 1905 年に設立し、以来、女性のエンパワメントと人権・平和・環境のために世界の仲間と共に活動を続けてきた国際 NGO です。過去 8 回にわたって、辺野古新基地建設に反対する抗議声明を発してきました。

2020 年 4 月防衛省は、辺野古における米軍新基地建設の埋め立て予定地に軟弱地盤が見つかったことを受けて設計変更を沖縄県に申請し、当初は主に県外から搬入予定だった土砂について、主要調達先を県内に切り替え、その結果、調達可能量の 7 割が糸満市と八重瀬町の「南部地区」が占めることになったこと、また 11 月から具体的な作業が始まったと報道されています。

1945 年 3 月 26 日から 6 月 23 日までの約 3 か月間、沖縄県南部は、激戦地となり軍民混在の地上戦で 20 万人を超える方々が亡くなりました。本土（ヤマト）を戦地にしないために沖縄を捨て石にしました。亡くなった方の中には沖縄出身の民間人、軍人、本土からの軍人、植民地統治下にあった朝鮮の人々、米国軍人などが含まれています。その人々の遺骨が含まれている土を、新しい基地建設に使うことは、沖縄戦の犠牲者をもう一度踏みつけにすることです。心から憤りを覚え、抗議します。

これまで約 40 年間、遺骨の収集や遺族への返還に取り組んできた沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんは、3 月 1 日よりハンガーストライキに入り、「戦没者の遺骨が混じった土砂を埋め立てに使うのは間違っている。国は『沖縄に寄り添う』と言ってきたが、全く逆のことをやろうとしている。死者への畏敬の念が全く感じられない」と訴え続けておられます。私たちは、この訴えに共感し、連帯して抗議の声をあげます。

日本政府がなすべきことは、この地を「慰霊追悼の場」とし、遺骨の収集に誠実に取り組み、日本国憲法の前文にあるように、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにする」ことを誓い、アジア・太平洋戦争の日本による加害と被害の歴史を伝えていくことです。武力によって生命を奪い、脅かす軍事基地は必要ありません。

私たちは、沖縄県南部の土地から遺骨を含む土を採取し、辺野古の米軍新基地建設に使用することに強く反対します。

日本 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11 東京YWCA会館 302 号室
TEL: 03-3292-6121 FAX: 03-3292-6122、e-mail: office-japan@ywca.or.jp